

第二学年 国語科学習指導案

日時 令和五年 十月 三十日(月)
場所 郡上市立郡南中学校(二年 一組教室)
学級 二年 一組(男 九名・女子 九名 計 十八名)
授業者 上村 一貴

一、単元名「論理を捉えて」 教材名「根拠の適切さを考えて書こう」

二、単元および教材について

意見を述べ合うという活動は、文章にこだわるべきがなければ、我々は毎日のように行っている。しかし、相手を理解させよう、納得させようとして意見を述べ合うには、それ相応の根拠を示さないと成立しない。この単元においては、適切な根拠を考えることに重点を置き、自らの主張を支える根拠を吟味し、説得力のある意見文を書く学習を行う。これまでの意見文を書く活動は、学校生活や日常生活を題材に書くことが多かった。二年生においては、題材を社会生活全般に広げていく。今回、教科を横断的に考え、生徒が自分の意見をもち学習を進めている総合的な学習の時間より題材を「長良川について」とし、積極的な意見構成を考えていく。二年生においては「長良川の河口堰」「伊勢湾まで流れ着くマイクロプラスチックの問題」など考える題材には事欠かない。自分が考えたことに対して反論を加えられることもあるだろう。様々な反論を想定し、構成を考え、根拠を示すことよって説得力の増す意見文を書けるようにしていきたい。

「書く」領域において、文字を書かせることは大事な活動である。しかし、どの子にも「書く」力を身に付けさせるためにデジタルもうまく活用させたい。文章の入れ替えをする際に文字を消したり、書き換えたりにすることが苦手で国語が嫌になるという生徒は一定数存在する。書ききることと、デジタルを活用することをミックスすることで「意見文」を書ききる力を付ける教材にしていく。

三、生徒の実態

生徒は第一学年「根拠を明確にして魅力を伝えよう」観賞文を書く」において、作品の魅力を伝えるために、段落の役割を考えて文章を構成することや具体的な事実を取り上げて、自分の感じたことの根拠を明確にして記述することを学習している。また、これまで第二学年で学習してきた「多様な方法で情報を集めよう」職業ガイドを作る」や「短歌を作る」では、時間はかかるが自分の思いを伝えるための情報を集めたり、短歌を作ったりすることに抵抗感は少なかった。しかし、一部の生徒でノートや紙に書くということに抵抗感をもつ生徒がおり、タブレットを使い文字を書き、文章などを作らせることで抵抗なく進めることができた。今回の単元でも同じ抵抗感を示すことが考えられるので、デジタルで進められるところは進めていく。学年当初から進めてきた総合的な学習にも積極的に取り組み「長良川について」考える意欲は高いと感じられる。考えたことを上手く相手に伝えるために「根拠」の大切さを学び、構成を考え、反論を想定しながら意見文をつくることを喜ぶことができるようにしたい。

四、「生きてはたらく言語能力」の育成について

中学校学習指導要領解説【思考力・判断力・表現力等】B 書くこと(2) 第二学年より

○ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。

○イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。

◎ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

本教材では、学習指導要領「ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。」を、総合的な学習で学んでいる「長良川に携わる人々、美並に生きる私たちにできること」を題材に起こし、自分たちが聞いてきたこと、学んできたことが根拠とすることができるように位置づけた。これを受けて、この学習が総合的な学習の学びをより深めると共に自らの考えが根拠を明確とし、書くことができるようにした。

学習指導要領「イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫すること」を、文章を構成するために「観点メモ」をロイロノートに起こし、カードを使って段落相互の関係を考え、どう組み合わせることがより効果的な文章になるのかを考えることで構成や展開を工夫させることを具現化した。

学習指導要領「ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」を、自分の意見を支える根拠を、これまで総合的な学習で学んできた事実をもとに示したり、自分が見たり、体験したりしたことを具体例として示し根拠として示すことができるようにした。

五、研究に関わって

研究内容(1) 指導計画の工夫

①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用

指導計画を作成する際、指導事項、学習活動、評価基準などを一つの表にまとめて単元構想表を作成することで、教師が単元に見通しをもって授業に取り組むことができる。指導事項が明確になることで、生徒がどのような姿になればいいかが分かり、重点的に指導することができる。

②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫

知らないことや、関心のないことに対して文章を書いたり、話したりすることは生徒にとってハードルが高い。「書かされる」「やらされる」という気持ちをぬぐえないからである。では、生徒が関心をもって取り組めることは何だろうか。本校では、総合的な学習で体験を通して、長良川のことを学んでいる。自分たちの身近にある川である「長良川」について、どんな問題があるのか、どのように関わっていくことが長良川の未来につながるっていくのかを、宿泊研修や体験活動を通して学んでいる。様々な講師の方の話から、自分の考えを深めることができた2年生の関心は高い。長良川河口堰や伊勢湾に流れるプラスチックゴミや話を実際に見たり、聞いたりしていることから、適切な根拠を導き出すことができる。

研究内容(2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

総合的な学習の時間のテーマを取り上げること、生徒は既知の学習を扱うことができ活動に向かいやすくなっている。安心して学習に取り組むことができる分、自ら進んで学習に取り組むことができる。身近な長良川についての学習で、宿泊研修や体験活動を行い長良川についての問題に関心をもって取り組むことができている。総合的な学習で学んだことをさらに掘り下げて意見文を作成することで深い学びを獲得することができる。また、「テーマを決める」「反論を想定する」「意見文を読み合う」の各活動で、3〜4人の小グループを作り、意見を伝え合う場の中で積極的に「質問」や「反論」、「アドバイス」を送り合うことで仲間と対話的に学べるようにする。

②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫

本単元において、生徒は「文章の構成や展開」「見え方考え方を表す言葉」などを学びながら、意見文を作成していく。文章を書くときに、いつでも学んだことを振り返ることができるように、ロイロノートを活用し、「文章の構成や展開」「見え方考え方を表す言葉」の資料をデジタル化しておく。積極的に資料を活用させることで言語感覚を身に付けさせる。タブレットを活用することで、学習のペースが速い子や遅い子の区別なく資料を利用することができ、また、「学びの地図」をロイロノートに作成することで、資料の場所を分かりやすくし活用しやすくしている。

「段落構成」に関しては、「構成メモ」をロイロノートのカードで作成することで入れ替えを容易にし、繰り返し作業ができた、仲間のアドバイスをもらった後の修正もスムーズにできたりできる。「どの子」にも身に付けさせるためにタブレットをうまく活用していく。

研究内容(3) 評価の工夫

①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方

振り返りの積み重ねが、自己の高まりを実感できる。ロイロノートのアンケート機能を利用し、単位時間の終末に自己評価の時間を設ける。アンケートの設問を吟味し、生徒がどんなことについて振り返ればいいのかをはっきりさせておく。「学びの地図」を使い、授業の最初に自己評価の内容を伝え、授業が終わったときに自分がどのような姿であればよいか見通しをもたせる。

アンケートの振り返りの中に、仲間の良い姿を書く欄を設け、他者の評価からも自己の高まりを実感できるようにする。

七、本時のねらい

反論を想定し、それに対する意見を考える活動を通して、自分の意見づくりの改善点を見いだすことができる。

八、本時の展開（4/8）

導入	学習活動
<p>◆前時までの進捗状況を確認し、本時の活動に見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で学んだ「長良川」について意見文を書く。 ・観点ごとに長所と短所をまとめた。 ・テーマに対して反対か賛成か立場を決めた。 <p>◆振り返りの内容を見て、本時目指す姿を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反論を想定して、それに対する意見がつくれたか。 ・仲間との交流を生かして自分の考えを明確にできたか。 <p>◆課題をつかむ</p> <p>反論を想定して、それに対する意見を考えよう。</p> <p>◆モデル文に対する反論への意見を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>別紙 モデル文より</p> </div> <p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反論されたことに対する考えは、根拠に裏づけや数値などの具体的な物が無いと、意見として弱い。 ・逆にしっかりと裏付けのある根拠があると納得できる。 <p>◆3〜4人のグループを作り、自分が考えたテーマに関する「反論」を仲間からもらい、その「反論」に対する意見を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートのカードに「反論」を書き入れてもらう。「反論」のカードに自分が考える意見を書き込む。 ・「反論」カードに自分の考えのカードをつないでおく。 <p>◆3〜4人のグループの中で、自分の考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループのロイロノートに自分の考えた意見を書いたカードを送る。 ・「反論」に対する自分が考えた意見が適切かアドバイスをもらう。 <p>◆アドバイスをもとに自分の意見を再構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間からのアドバイスを基に、自分の意見の修正をする。 <p>◆再構築した自分の意見を全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反論された部分を資料やデータを基に作った自分の意見で相手を納得させることができたか聞いてもらう。 <p>◆振り返りのアンケートを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入で話した姿になれたかどうか、アンケートで振り返る。 ・モニターを見ながら、仲間の振り返りを確かめる。 <p>終末</p>	<p>指導・援助</p> <p>●研究内容①</p> <p>評価規準を確認して付けたい力を明確にする。教師が意識することで生徒もつけるべき力とやるべき内容を見通すことができる。</p> <p>●研究内容②</p> <p>モデル文で確認するとき、どのような考えなら反論になるか、反論に対する意見がどのようなものならば、自分のテーマが深まるのかを確かめる。</p> <p>●研究内容③</p> <p>自己の高まりを実感できるように毎時間のアンケートによる振り返りを行う。アンケートの内容は常時見られるようにしておく。仲間からの言葉からも高まりを実感させる。</p> <p>●研究内容④</p> <p>評価規準【思・判・表B（イ）】 根拠の適切さを考えて、説明や具体例を入れるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 （ロイロノート・発言） 反論に対する自分の考えが、具体的な資料や根拠に基づいて考えることができているかを評価する。</p>